

## しろな（非結球はくさい）

農薬取締法上、「しろな」の作物名は「非結球はくさい」である。

「非結球はくさい」には、「非結球はくさい」「非結球あぶらな科葉菜類」「葉菜類」「野菜類」に適用のある農薬を使用すること。（非結球あぶらな科葉菜類の項目参照）

—— 発病・加害時期  
 == 発病・加害最盛期

作型・病虫害名		月												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
普	通	●	■	●	■	■	●	■	●	■	●	■	●	■
		は種	収穫											
萎黄病	根こぶ病													
アオムシ	シガ													
コナメ	イガ													
ハイダノメイ	ハエ													
ハモグリバエ	類													
ヨトウムシ	類													

## 萎黄病

### 留意事項

- 1 病原菌は根に侵入し、道管に沿って下から移動するため、葉の黄化も下から進行する。
- 2 株元を切断すると、維管束が変色していることがある。
- 3 根傷みによって発生が助長される。

### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（XⅢ土壌消毒 参照）
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 ☐

【20～30kg／10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する  
 は種または定植14日前／1回】
- 4 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

## 根こぶ病

### 留意事項

- 1 降雨が続く秋期に発生しやすい。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 2 気温が高く、日照時間が長い時に発生しやすい。
- 3 酸性土壌で排水不良のほ場に発生が多い。

#### 防除方法

- 1 あぶらな科野菜の連作を避ける。
- 2 排水を良好にする。
- 3 石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。
- 4 下記の薬剤で土壌消毒を行う。（ⅩⅢ土壌消毒 参照）
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 —
  - 【20～30kg/10a 所定量を均一に散布して土壌と混和する  
は種または定植14日前/1回】
- 5 発病株は早めに除去し、ほ場外に持ち出し適切に処分する。

## アオムシ

#### 留意事項

- 1 幼虫による被害は春と秋に多い。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

#### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 3日/2回】
  - ・ [コテツフロアブル](#) 劇 1 3 【2000倍 3日/2回】
  - ・ [アディオン乳剤](#) 3 A 【2000～4000倍 前日/3回】
  - ・ BT剤 1 1 A（Ⅸ野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## コナガ

#### 留意事項

- 1 葉裏に網のような繭をつくって蛹になる。
- 2 春～初夏、秋の発生が多い。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

#### 防除方法

- 1 ベたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [コテツフロアブル 劇](#) 13 【2000倍 3日／2回】
- ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 3日／2回】
- ・ [プレバソンフロアブル5](#) 28 【2000倍 前日／2回】
- ・ **BT剤** 11A（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

## ハイマダラノメイガ

### 留意事項

- 1 夏期が高温少雨で、残暑のきびしい年に多発しやすい。

### 防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 3日／2回】

## ハモグリバエ類

### 防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 3日／2回】

## ヨトウムシ類

### 留意事項

- 1 夏～秋期に高温乾燥する年に大発生する傾向がある。
- 2 若齢幼虫の防除に重点を置く。
- 3 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
- 4 BT剤は8月後半～9月前半に使用すると効果が高い。

### 防除方法

- 1 べたがけ資材の利用により被害軽減に努める。
- 2 育苗期～定植当日に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [プレバソンフロアブル5](#) 28  
 【ハスモンヨトウ 100倍（0.5L／セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊（約30×60cm、使用土壌約1.5～4L）） かん注 育苗期後半～定植当日／1回】
- 2 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スピノエース顆粒水和剤](#) 5 【5000倍 3日／2回】
  - ・ **BT剤** 11A（IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。